

Endovascular Therapy for Internal Iliac Artery Aneurysm: a case report

Saiseikai Yokohama-City Eastern Hospital, Japan

Shinsuke Mori

症例は 73 歳男性。間歇性跛行を主訴に当院受診。下肢造影で右総腸骨動脈狭窄と左内腸骨動脈瘤（径 3cm）を指摘、血管内治療の方針となる。術前に施行した単純 CT で瘤の基部が wide neck であること、瘤の先にもう一つ小さな瘤があることを確認した。両大腿動脈アプローチを選択。右大腿動脈に 6Fr シースを、左大腿動脈に 9Fr シースをそれぞれ挿入した。まず、右総腸骨動脈病変に対して SMART stent を留置。次に、4Fr ファンサックを右大腿動脈からクロスオーバーさせ、左内腸骨動脈瘤内まで進めた。Cruise を小さな瘤に流入する branch にクロスさせ、Excelsior を挿入し branch および小さな瘤のコイル塞栓を行った。4Fr ファンサックを瘤内においたまま、左総腸骨動脈から外腸骨動脈にかけて fluency vascular stent graft を留置し、内腸骨動脈瘤を occlusion した。さらに瘤内にコイルを留置し、最後に 4Fr ファンサックを抜去、fluency vascular stent graft の両端をバルーン拡張し手技を終えた。内腸骨動脈瘤に対して、血管内治療を行った一例を経験したのでこれを報告する。